

世界農業遺産

総合地球環境学研究所・阿部健一



Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage System

GIAHS

GIHASイニシアティブ 2002年 FAO

持続的で「健全」な農業システムの認定

佐渡・能登(里山・里海)



認定の基準：何を「遺す」のか

「農業」を想定

- (1) 持続可能な土地・資源利用システム
- (2) 健全な食を安定して提供する技術
技術はつねに進化してきた
- (3) 技術とシステムを支えてきた文化
知識とその担い手
- (4) 人間活動と自然が調和した景観
- (5) 結果としての生物多様性



認定の基準

客観的な数値による基準はない

「遺すこと」よりも「変えてゆくこと」

農林水産業は「生きているシステム」

時代によって変わってきたし

変えてゆかなければならない。

経済効率重視 ⇒ 経済的価値以外の価値

暮らしとして、生きざまとしての農林水産業

担い手であることの誇り



認定の基準：アクションプラン（1）

「未来への遺産」

地域によって異なる将来の「あるべき姿」

あるべき姿とはなにか関係者で「熟議」

地元＋行政＋外部有識者

農林水産業だけでない

たとえば観光・教育・交通



認定の基準：アクションプラン（2）

そのうえで現状認識・課題の明確化

「あるべき姿」実現のためには何か問題なのか」

そして「問題」をどのように解決してゆくのか

再び関係者で「熟議」

地元＋行政＋外部有識者

アクションプランの作成



良い方向に変えてゆく

世界の農林水産業が抱える問題

後継者不足

過度の化学肥料・農薬依存

効率重視

土地の荒廃・資源の枯渇

環境劣化

変えてゆくための模範 ⇒ 「世界農業遺産」

世界の人たちに「良い例」を示す



地元へのメリット？

実は、認定自体は一過性のもの：「祭」

その前と後が重要

熟議

世界の範となる：自信と誇り

